

謝辞

本論文の作成において、指導教官の山口隆英先生（兵庫県立大学教授）には多くの貴重なご指導とご助言をいただき、感謝を言葉では言い表せないほどである。山口隆英先生は、小生の博士論文の構想に関してだいたい先を見通しておられ、授業のたびに、その構想をお示しくださった。ご指導を受けている最中は、小生には理解できないことも多く、後になって、そういうことだったのかと腑に落ちることが多々あった。山口隆英先生に教えを授かる機会をいただけたことは、小生にとって幸運なことであった。山口隆英先生をご紹介くださった横澤公道先生（横浜国立大学准教授）のおかげである。副指導教官の當間克雄先生（兵庫県立大学教授）と内田康郎先生（兵庫県立大学大学院教授）にも貴重なアドバイスを何度もいただいた。また、大阪商業大学に移られる前まで副指導教官を担当してくださった西井進剛先生（当時、兵庫県立大学教授）からも親身なご指導をいただいた。

本論文の第7章は、多国籍企業学会の学会誌『多国籍企業研究』に研究論文として取り上げていただいた。匿名査読者の先生方には、論文の修正箇所から修正方法のご助言に至るまで、貴重なアドバイスをいただいた。本論文の構想を練る過程においては、多国籍企業学会の西部部会にて三回にわたり発表させていただき、安室憲一先生（兵庫県立大学名誉教授、大阪商業大学名誉教授）から厳しくも温かいご指導をいただいた。さらに、故吉原英樹先生（神戸大学名誉教授）からは、お亡くなりになる直前まで、厳しくも愛情あるコメントをいただいた。また、学会発表においては、梅野巨利先生（兵庫県立大学名誉教授、大阪商業大学教授）にメンター、古沢昌之先生（当時、近畿大学教授）にコメンテーターを務めていただき、様々なご助言をいただいた。さらに、馬場一先生（関西大学准教授）から参考論文をご紹介いただいたとともに、様々なアドバイスをいただいた。このように、本論文は、多国籍企業学会からのサポートの賜でもある。

また、社会人院生として、学業と執筆に励むことができたのは、妻の稚尋のおかげである。妻の協力がなければ、本論文は到底完成しえなかった。父として子供達の遊び相手にもならず、美弥と弥生には寂しい思いをさせてしまったことを、本当に申し訳なく思う。本論文を作成できたのは、本当に多くの人々のサポートのおかげである。

最後に繰り返しになるが、本論文は指導教官を務めてくださった山口隆英教授のご指導に帰するところが大きいと、重ねてお礼申し上げる次第である。

以上